

<研究成果の紹介>

農林水産省果樹試験場で育成されたナシ新系統の特性

園芸グループ

1. 成果の内容

農業技術センターをはじめ全国の試験場では、ナシ第6回系統適応性検定試験で農林水産省果樹試験場が育成したナシ新系統の現地適応性を検討してきましたが、その中から4つの新品種が登録されることになりましたので紹介いたします。

(1) 筑波45号

「162-29(「新高」×「豊水」)」が母親、「42-6(「雲井」×「幸水」)」が花粉親の赤ナシで、熟期は「幸水」より5~7日程度遅く、条溝の多いことがやや欠点であるものの、大果で糖度が高く日持ち性に優れています。

(2) 筑波46号

「幸水」が母親、「筑水」が花粉親の青ナシで、熟期は「幸水」より10日程度遅く、サビ果の発生(無袋ではほぼ全面、有袋で「秀玉」程度)が目立ちますが、玉揃いが良く、豊産性です。

(3) あきづき(筑波47号)

「162-29」が母親、「幸水」が花粉親の赤ナシで、「あきづき」と命名されました。熟期は「豊水」より10日程度遅く、大果で食味が良く、花芽の着生がやや少ない傾向ですが、収量性には全く問題はありません。

(4) 筑波48号

「C₂(「慈梨(ツリ-)」×「二十世紀」)」が母親、「新雪」が花粉親の赤ナシで、熟期は10月下旬~11月上旬、倒卵~紡錘形で黄緑褐色という今までにない外観の晩生梨です。果色による収穫期の判定が難しく、みつ症のような果肉崩壊症状が出る可能性があるという欠点があります。また、収穫前落果が見られますが、落果防止剤(ストッポール)でかなり軽減されます。同時期に収穫される「晩三吉」より食味は優れています。

2. 技術の適用効果と適用範囲

いずれの品種も本県のナシ栽培地で栽培可能と思われる、「幸水」、「豊水」の補助的品種として特に直売経営で収穫期間を拡大したい場合などには有望であると思われます。

3. 普及、利用上の留意点

本県はしばしば台風の影響を受けるため、晩生の「あきづき」、「筑波48号」の栽培については強風による落果、傷害等のリスクがあるものと思われます。

なお、「あきづき」を除く3品種は現在、登録申請中のため、実際に苗木が供給されるまでには2年程度かかる見込みです。

(西川 豊)

表1 開花・収穫期および花芽着生(農技センターH6~11)

品種名	満開日		収穫期(月/日)		花芽の着生	
	(月/日)	始	終	腋花芽	結果枝	
筑波45号	4/14	8/10	8/29	やや少	中	
筑波46号	4/17	8/14	9/01	中	中	
あきづき	4/14	8/30	9/16	やや少	やや少	
筑波48号	4/15	10/25	11/06	やや少	やや多	
幸水	4/15	8/06	8/21	中	やや少	
豊水	4/12	8/26	9/11	やや多	やや多	

表2 収量および果実品質(農技センターH10~11)

品種名	収量/樹 ¹⁾ (kg)	平均重 (g)	糖度 (%)	pH	硬度
					(lbs)
筑波45号	18.0	382	13.1	5.21	4.4
筑波46号	33.8	336	11.9	5.08	3.9
あきづき	37.8	452	12.2	4.84	3.7
筑波48号	20.6	593	12.4	4.67	3.3
幸水	29.9	327	11.9	5.13	4.6
豊水	34.6	454	12.4	4.80	3.5

¹⁾ 2カ年平均、樹齢は平成10年時で7年生